

McLaren Honda MP4/4

1988 WORLD CHAMPIONSHIP WINNING CAR

3

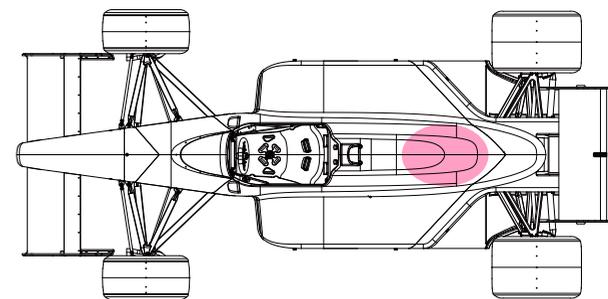
マクラーレン ホンダ
MP4/4

最速の世界を制した伝説のメモリアルマシンを
内部機構まで完全再現！



Mission 07 エンジンを組み立てる ①

今号はカムカバーやオルタネーター、ターボチャンバーといったエンジン関連のパーツを組み立てる。まず左右のカムカバーにホンダロゴプレートを接着して、エンジンブロックに仮留めする。次にオルタネーターを組み立て、ターボチャンバーにインジェクションユニットAを取り付ける。



今号のパーツ

① オルタネーターベルト



⑥ ホンダロゴプレート **ABS製**



② オルタネーター (後)



③ オルタネーター (前)



⑦ カムカバー (右) **ダイキャスト製**



④ インジェクションユニットA (上)



⑤ ターボチャンバー (後)



⑧ プラグソケット×3



⑨ ビスD (1.4×8F-M SiL)×3



※ビスは予備1本を含む。

※①～⑤⑧はHIPS (スチロール樹脂)製

今号で使用する道具

- ・瞬間接着剤 (一般用・液状タイプ)
- ・プラモデル (スチロール樹脂) 用接着剤
- ・プラスドライバー (00番) ※2号で提供
- ・カッター
- ・カッティングマット
- ・つまようじ
- ・割り箸

用意するもの

- ・エンジンブロック ※4号で組み立て
- ・ターボチャンバー ※6号で提供

ポイント

瞬間接着剤の塗り方

●瞬間接着剤は、接着面に対して少量塗るようにすると、はみ出しや接着面周辺が白くなる「白化現象」を防ぐことができる。接着剤のノズルで塗りにくい場合は、あらかじめ小皿やビニールの上などに接着剤を出しておき、つまようじを使って塗るとよい。



今号で組み立てるオルタネーターは、エンジンの動力を使って発電するパーツだ。MP4/4の圧倒的な強さは、ハイパワーのホンダエンジンだけでなく、オルタネーターのような電気系パーツの高い信頼性にも支えられていた。本モデルでは、オルタネーター本体だけでなくベルトやプリーのボルトといった周辺パーツを細部まで再現している。

◀RA168Eエンジンのオルタネーター周辺。

In Focus

1 カムカバー (右) と ホンダロゴプレートの接着準備

- 4号で組み立てたエンジンブロックを用意する。



- ⑥ ホンダロゴプレートの赤矢印で示した小さな丸い印をカッターの刃のない部分で削って平らに整える。



■ 丸い印の段差がなくなるまで削る。

《仮組み》

- ⑦ カムカバー (右) の赤丸で示した穴に裏側からホンダロゴプレートをはめ込み、写真のように組み合わせる。



2 カムカバー (右) と ホンダロゴプレートを接着する

- ホンダロゴプレートを仮組みしたままカムカバー (右) を裏返してカッティングマットなどの上に置く。ホンダロゴプレートを割り箸でおさえながら、ホンダロゴプレートとカムカバー (右) の合わせ目 (赤線) に、つまようじで少量ずつ瞬間接着剤を塗って接着面に染みこませる。完全に接着するまで1分ほど待つ。



■ 接着剤を塗りすぎないように少量ずつ塗る。

3 カムカバー (右) を エンジンブロックに仮留めする

- 4号で仮留めたカムカバー (左) と同様に、カムカバー (右) とエンジンブロックを組み合わせる。赤丸で示した2つの穴がビス穴となることを確認する。



- 確認した2つのビス穴に⑨ビスDを差し、プラスドライバー (00番) で少しずつ交互に締めてカムカバー (右) を仮留めする。後の号で取り外して作業するので固定するまで締め込まなくてよい。



4 カムカバー (左) に ホンダロゴプレートを接着し エンジンブロックに仮留めする

- エンジンブロックから4号で仮留めたカムカバー (左) を取り外し、①～③と同様の作業をしてカムカバー (左) にもホンダロゴプレートを接着し、再びエンジンブロックに仮留めする。



5 ターボチャンバーにターボチャンバー (後) とインジェクションユニットA (上) を 接着する

- 6号で提供したターボチャンバーを用意する。



《仮組み》

- ターボチャンバーの赤矢印で示した突起に⑤ターボチャンバー (後) の赤線で示した溝をはめ込んで仮組みする。



《仮組み》

ターボチャンバー（後）の黄丸で示した穴に、④インジェクションユニットA（上）の黄矢印で示した突起を写真のように差しこむ。



●ターボチャンバーの赤点部分(突起の最後部の面)と赤線で示した部分(段差との境目)に瞬間接着剤をつまようじで少量塗る。仮組みしたようにターボチャンバー（後）を組み合わせ、完全に接着するまで指で1分ほどおさえる。



■ターボチャンバー、ターボチャンバー（後）とインジェクションユニットA（上）は接着面の塗装をはがさなくてよい。



●ターボチャンバーとインジェクションユニットA（上）を仮組みしたように組み合わせ、穴の反対側から見える突起先端(黄矢印)にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤をつまようじでたらすようにして少量塗る。



■穴の周囲に接着剤がはみ出さないようにする。

●横から見て赤線で示した部分が平行、後ろから見てインジェクションユニットA（上）がターボチャンバーの中心(青線)になるようにして、軽く指で2～3分おさえる。



■強くおさえてインジェクションユニットA（上）の突起を折らないように注意する。

●インジェクションユニットA（上）が完全に接着するまで1時間ほどおく。



Check



▲完成時イメージ

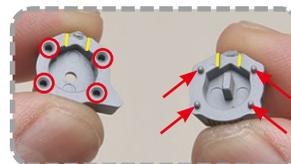
■ターボチャンバーやインジェクションユニットAなどエンジン関連のパーツは、モデル完成後も見ることができる。エンジン全体を美しく仕上げるために、各パーツは正確に接着しよう。

6

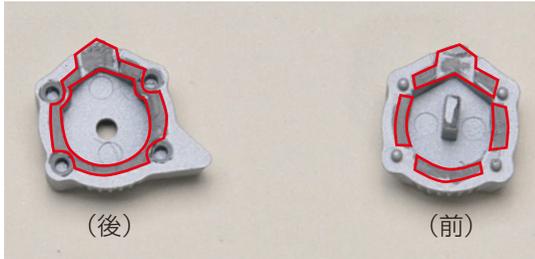
オルタネーター（前）と
オルタネーター（後）の接着準備

《仮組み》

黄線で示した溝同士を合わせ、②オルタネーター（後）の赤丸で示した4つの穴に③オルタネーター（前）の赤矢印の突起を入れて組み合わせる。



● オルタネーター（前・後）の赤線で囲んだ部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



■ オルタネーター（前）の突起を傷つけないように注意すること。

7 オルタネーター（前）と オルタネーター（後）を接着する

● オルタネーター（後）の赤線で示した部分にプラモデル（スチロール樹脂）用接着剤を少量塗り（青色の溝部分には塗らない）、仮組みしたようにオルタネーター（前）と組み合わせて指で2～3分おさえる。



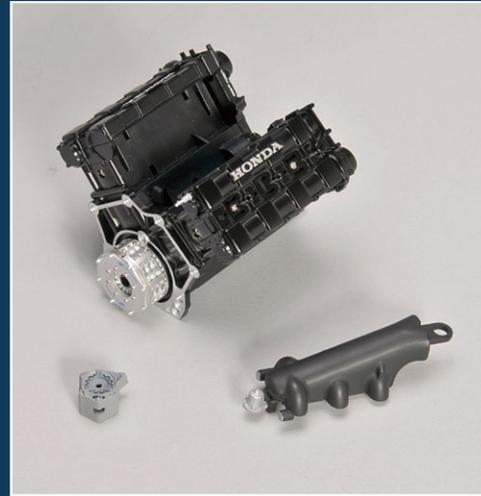
■ おさえるときにパーツ同士がずれないようにする。

● 完全に接着するまで1時間ほどおく。



今号の完成

左右のカムカバーにホンダロゴプレートが接着され、エンジンブロックに仮組みされた。オルタネーターができあがり、インジェクションユニットA（上）が取り付けられてターボチャンバー後部が完成に近づいてきた。



保管パーツ

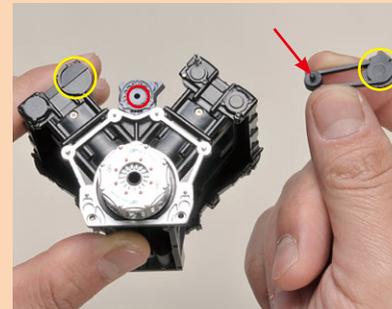
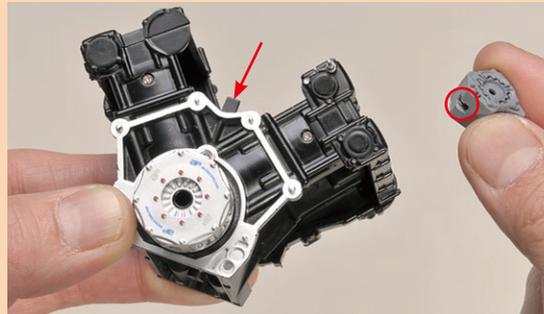
① オルタネーターベルトと② プラグソケットは後の号でエンジンに取り付ける。プラグソケットは6号で提供したものと同一なので、まとめて保管しておこう。



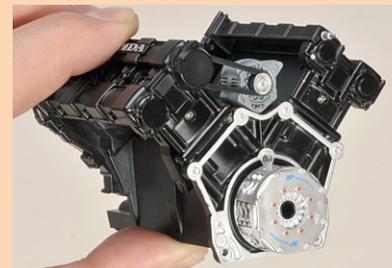
ナビゲーション

今号で組み立てたオルタネーターと保管パーツのオルタネーターベルトは、後の号でエンジンブロックに取り付ける。取り付け位置の確認をしておこう。

1 エンジンブロックの赤矢印で示した突起と、オルタネーターの赤丸で示した穴を組み合わせる。



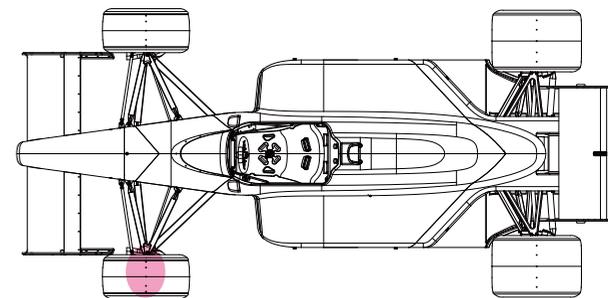
2 オルタネーターの赤丸で示した穴にオルタネーターベルトの赤矢印で示した突起を入れ、エンジンブロックとオルタネーターベルトの黄丸部分の切り欠きを組み合わせる。



3 各パーツの向きなどを確認し、取り付け位置を把握しておこう。

Mission 08 左のフロントアップライトを組み立てる

今号は、フロントアップライトにフロントホイールハブとフロントブレーキハブ、フロントアクスルを取り付け、車体左側のフロントアップライトを組み立てる。出来上がったフロントアップライトには、次号でブレーキディスクとブレーキキャリパーを取り付ける。



今号のパーツ

① フロントブレーキダクト(左)



② サスアームジョイント(左前)



③ フロントブレーキハブ



④ フロントアップライト(左上)



⑤ フロントホイールハブ



⑥ フロントアクスル メタル製



⑦ フロントアップライト(左下)



⑧ ビスE (2.0×6P-M SiL)×2



※ビスは予備 1 本を含む。

※①～⑤ ⑦はHIPS (スチロール樹脂)製

今号で使用する道具

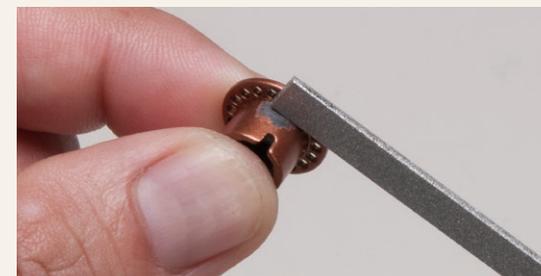
- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・プラスドライバー (0番)
- ・カッター
- ・カッティングマット
- ・割り箸
- ・平型ダイヤモンドやすり(下記ポイント参照)

ポイント

あると便利な道具

●小型の平型ダイヤモンドやすりは、パーツの円筒部分の塗装を削るときや、後の号で提供されるメッキパーツを削るときなど、カッターよりも安全に作業が進められる。ダイヤモンドやすりには「やすりの目」がないので、どの方向にも削ることができる便利な道具だ。購入する場合はやすりの目が細かいものを選ぼう。

平型ダイヤモンドやすり



フロントアップライトはサスペンションアームの先端に取り付けられ、ブレーキ関連のパーツやホイールを装着するための土台となるパーツだ。

本モデルのフロントアップライトには、実車の形状や色を再現したフロントアクスルやフロントブレーキハブなどが取り付けられる。

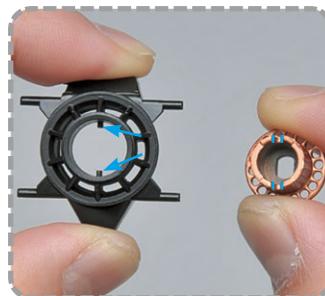
◀MP4/4のフロントアップライト周辺。写真のフロントアクスルにはホイールネットと保護キャップ(本モデルでは保護キャップは提供されない)が付けられている。

In Focus

1 フロントアップライト(左上)と フロントアップライト(左下)、 フロントブレーキハブの接着準備

《仮組み》

④ フロントアップライト(左上)の黄線で示した段差に⑦ フロントアップライト(左下)の黄線で示した部分を写真のように組み合わせる。



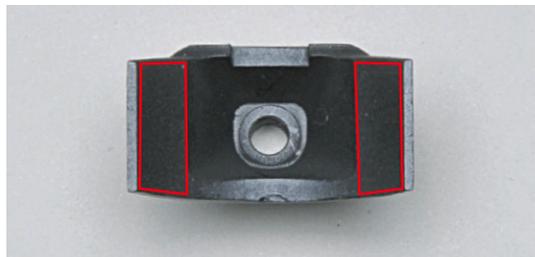
《仮組み》

青矢印で示した突起と青線で示した溝が組み合うように、フロントアップライト(左上)に⑨ フロントブレーキハブを差し込む。



■ フロントブレーキハブがしっかりと奥まで差し込まれていることを確認する。

● フロントアップライト(左下)内側の両端から段差までの赤線で囲んだ部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。塗装も下の素材面も黒いのでわかりにくいですが、はがした部分は光の反射具合で見分けられる。

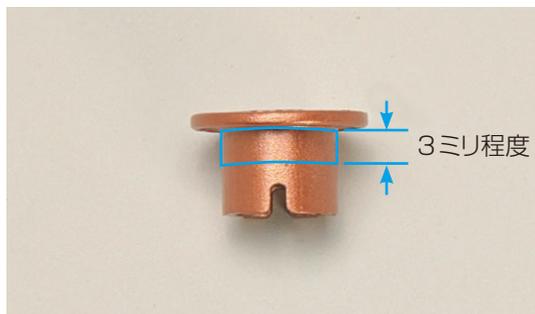


■ 素材面を深く傷つけないように注意する。

● フロントアップライト(左上)の黄線で囲んだ部分(5ミリ幅程度)の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。このパーツも塗装と素材面の両方とも黒いので、素材面を深く傷つけないように注意する。



● フロントブレーキハブの青線で囲んだ部分(3ミリ幅程度)の塗装をカッターの刃のない部分で円筒全周はがす。



2 フロントアップライト(左上)と フロントアップライト(左下)、 フロントブレーキハブを接着する

● フロントアップライト(左上)の塗装をはがした部分のうち、黄色で示した2ミリ幅程度だけにプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗る。仮組みしたようにフロントアップライト(左下)と組み合わせて指で2~3分おさえ、フロントアップライト(左)をつくる。



■ パーツ同士がずれないようにしばらくおさえる。

● フロントアップライト(左)の黄色で示した円筒の内壁部分(2ミリ幅程度)全周にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗る。内壁以外の部分には接着剤を塗らないように注意する。



■ 接着剤は円筒の内壁全周に塗る。

- 仮組みしたようにフロントアップライト(左)とフロントブレーキハブを組み合わせて、指で2~3分おさえてから、完全に接着するまで1時間ほどおく。



■フロントアップライト(左下)に力をかけないよう注意する。

Check



フロントアップライト(左) 完成時イメージ▲



▲タイヤ装着イメージ

■完成時にタイヤを装着するフロントアクスルを正しく取り付けるため、フロントアップライトとフロントブレーキハブが正確に接着されていることを確認しよう。

3 フロントアップライト(左)にフロントホイールハブとフロントアクスルを取り付ける

- フロントアップライト(左)の青丸で示した穴に⑤フロントホイールハブの青矢印で示した突起を差し込んで、写真のように組み合わせる。フロントホイールハブの赤丸で示した穴には次の工程で⑥フロントアクスルが差し込まれるので確認しておく。



■差し込んだあとでもフロントホイールハブは少し動く。

- フロントホイールハブを組み合わせたまま、フロントアップライト(左)の青丸の穴に、フロントアクスルの青矢印の突起を黄矢印で示した根本まで差し込む。このとき、フロントホイールハブの穴(前の工程で確認した赤丸の穴)にもフロントアクスルが差し込まれる。



■フロントホイールハブとフロントアクスルでフロントアップライトをはさみ込む。

- フロントアクスルがフロントホイールハブに差し込みにくい場合は、フロントアクスルを指で持ち、写真のようにフロントホイールハブを割り箸で押し込む。



■フロントアクスルが、しっかりと差し込まれていることを確認する。

- フロントホイールハブの赤丸で示した穴に⑧ビスEを差し、プラスドライバー(0番)で締め込んで固定する。



■締め込み過ぎに注意する。

今号の完成

フロントアップライト(左上)、フロントアップライト(左下)、フロントブレーキハブ、フロントホイールハブ、フロントアクスルが1つになって、フロントアップライト(左)が組み立てられた。



保管パーツ

① フロントブレーキダクト(左)と② サスアームジョイント(左前)は、後の号でフロントアップライト(左)に取り付ける。これらは「フロント(左)」と車体のどの位置に取り付けるか明記した袋に保管するとよい。



保管例



ナビゲーション

今号で組み立てたフロントアップライト(左)に、次号でブレーキディスクとブレーキキャリパーを取り付ける。事前に取り付け位置の簡単な確認をしておこう。

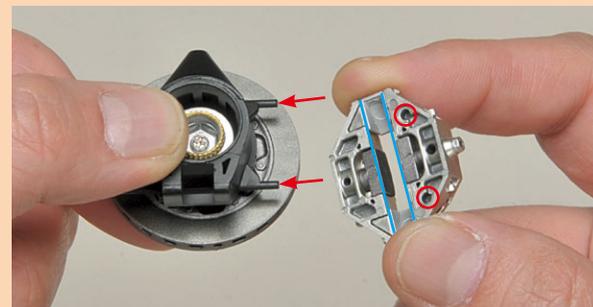
- 1 3号で組み立てたブレーキディスクと3号と4号で2つ組み立てたブレーキキャリパーを用意する。



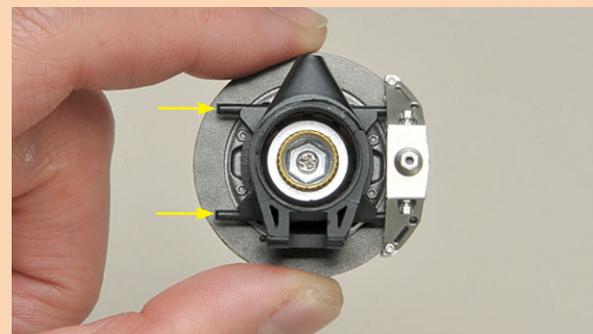
- 2 フロントアップライト(左)とブレーキディスクを写真のように組み合わせる。



- 3 ブレーキキャリパーの赤丸で示した穴にフロントアップライト(左)の赤矢印で示した片側2つの突起を入れながら、青線で示した部分にブレーキディスクをはめ込んで、3つのパーツを組み合わせる。



- 4 3と同様の作業をして、もう1つのブレーキキャリパーを黄矢印で示した2つの突起と組み合わせる。

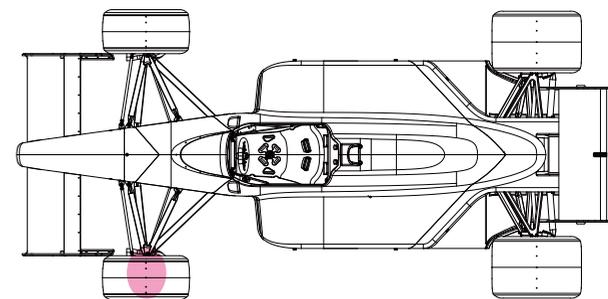


- 5 フロントアップライト(左)にブレーキディスクと2つのブレーキキャリパーが組み合わされた。それぞれのパーツの組み合わせ方を把握しておこう。

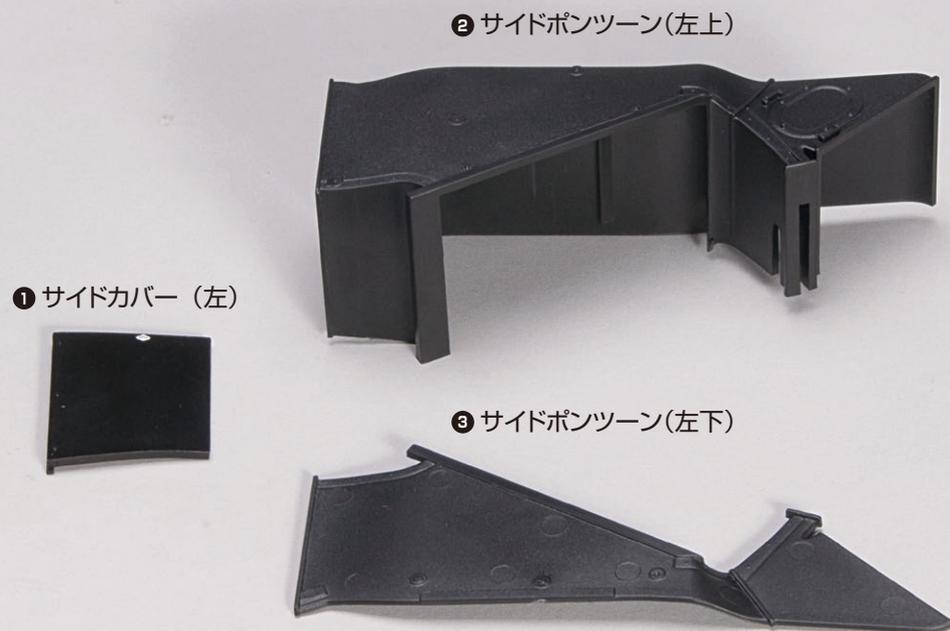


Mission 09 左のフロントブレーキを組み立てる

今号は、前号で組み立てたフロントアップライト(左)にブレーキディスクとブレーキキャリパーを取り付けて、左のフロントブレーキを組み立てる。今号で提供する左のサイドポンツーンのパーツとサイドカバーは、組み立ての事前確認をしてから保管する。



今号のパーツ



① サイドカバー (左)

② サイドポンツーン(左上)

③ サイドポンツーン(左下)

※①～③はHIPS (スチロール樹脂)製

今号で使用する道具

- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・カッター
- ・カッティングマット
- ・マスキングテープ
- ・ピンセット
- ・コピー用紙程度の厚さの紙(1枚)

用意するもの

- ・ブレーキディスク ※3号で組み立て
- ・ブレーキキャリパー×2 ※3号と4号で組み立て
- ・フロントアップライト(左) ※8号で組み立て

ポイント

「スミ入れ」について

●今号の「組み立てガイド」13ページで紹介している「スミ入れ」は、写真の道具を使用して、パーツの溝や凹みなどに塗料を流し込み、パーツをより立体的に見せるためのディテールアップ方法だ。難しい作業ではないので、是非チャレンジしてみよう。



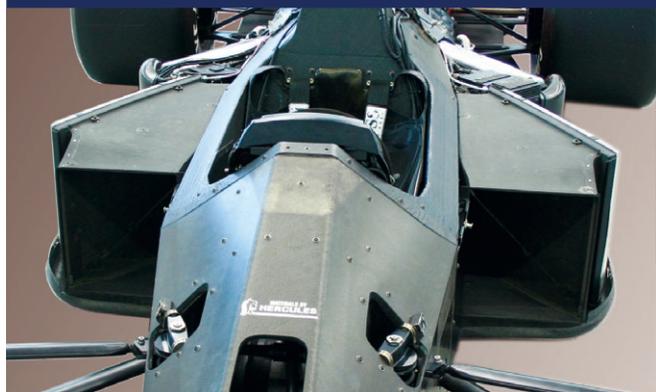
①タミヤ・スミ入れ塗料(ブラック) ②タミヤ・エナメル塗料 X-20 溶剤 ③綿棒

※ブレーキディスク、ブレーキキャリパー、フロントアップライト(左)のスミ入れは、今号の組み立て作業の前に行う。

サイドポンツーンは車体両側に取り付けられ、ラジエーターやインタークーラー(ターボマシンのみ装着)に空気を送るダクトとなるパーツだ。サイドポンツーンの形状や内部構造はマシンの空力やエンジンの冷却に影響を与える。本モデルのサイドポンツーンは実車と同様に内部が空洞になっている。

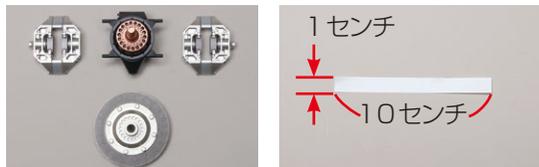
◀MP4/4のサイドポンツーン空気取り入れ口周辺。

In Focus



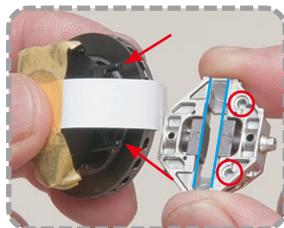
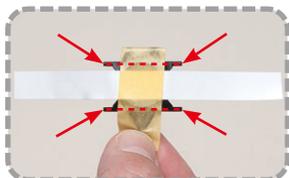
1 フロントアップライト(左)とブレーキキャリパーの接着準備

● 3号で組み立てたブレーキディスクと3号と4号で組み立てたブレーキキャリパーを2つ、8号で組み立てたフロントアップライト(左)、1×10センチに切った紙と4センチと6センチ程度のマスキングテープを1本ずつ用意する。



《仮組み》

まずフロントアップライト(左)の赤矢印で示した突起を結び2本の赤点線の内側中央に、用意した紙を4センチのマスキングテープで写真のように固定する。次にブレーキディスクをフロントアクスルに差し込んで組み合わせる。



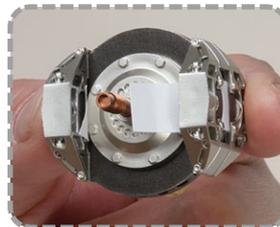
紙を軽く曲げてブレーキディスクにかぶせる。ブレーキキャリパーの赤丸の穴にフロントアップライト(左)の赤矢印で示した片側2つの突起を入れ、青線で示した部分にブレーキディスクを紙ごと上からはめ込む。紙が突っ張って破れないように注意する。



■紙をはさみ組み合わせることで、ブレーキディスクとブレーキパッドの間に適度なすき間をつくる。

《仮組み》

前の工程と同様の作業をして、もう1つのブレーキキャリパーもフロントアップライト(左)に仮組みする。その後ブレーキキャリパーを2つとも取り外し、紙がブレーキディスクに沿うような形になっていることを確認する。



■ブレーキディスクと紙は取り付けておく。

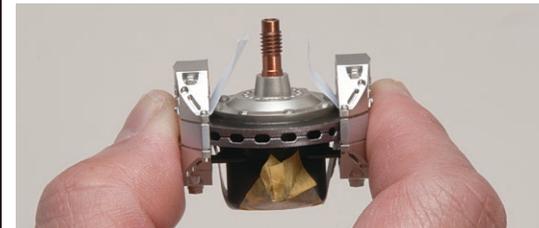
2 フロントアップライト(左)とブレーキキャリパーを接着する

● ブレーキキャリパーの赤丸で示した穴の中に、プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗る。仮組みしたようにフロントアップライト(左)と組み合わせ、青線で示した部分を平行にしながらかくとも3分は指でしっかりとおさえる。



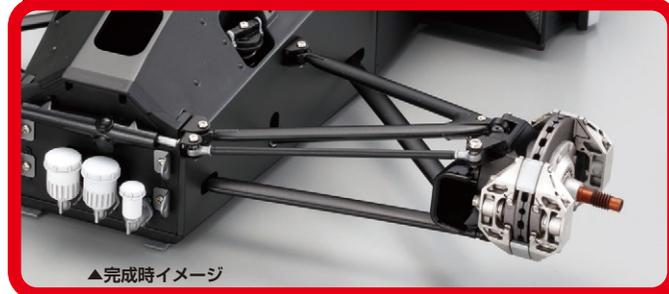
■正しい位置で接着するため、必ず3分はおさえること。

● 前の工程と同様の作業をして、もう1つのブレーキキャリパーもフロントアップライト(左)に接着する。



■3分は必ず指でおさえる。

Check



■フロントブレーキは、モデル完成後も鑑賞できるパーツだ。次の工程でマスキングテープを貼って固定する前に、フロントアップライト(左)とブレーキキャリパーが正しく取り付けられていることを確認しておこう。

● 用意した6センチのマスキングテープで2つのブレーキキャリパーとフロントアップライト(左)を写真のように固定し、完全に接着するまで1時間ほどおく。



■マスキングテープは軽く固定すればよい。

●完全に接着したら、紙が動かないようにしながら、まずマスキングテープだけはがす。



●パーツに傷をつけないように注意しながら、カッターを使って紙を中心部分で2分割する。



●2枚になった紙をブレーキディスクの部分からピンセットでそれぞれ抜き取る。



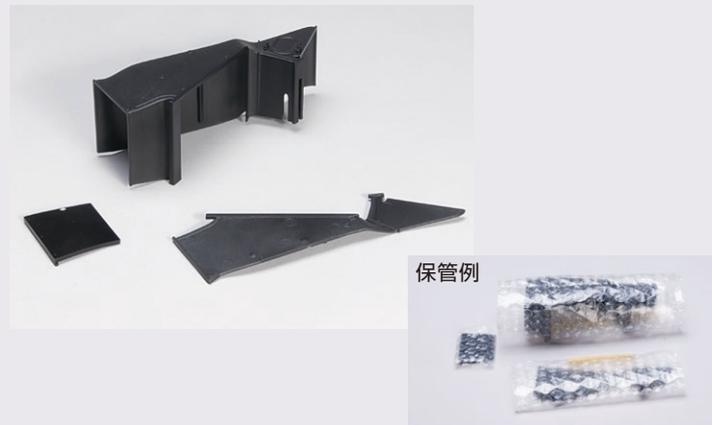
今号の完成

フロントアップライト(左)にブレーキディスクとブレーキキャリパーが取り付けられて、フロントブレーキ(左)が組み立てられた。



保管パーツ

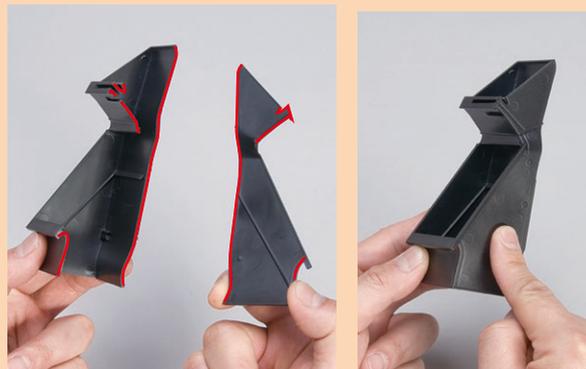
①サイドカバー(左)と②サイドポンツーン(左上)、③サイドポンツーン(左下)は緩衝材などを巻いて保管すると傷がつきにくい。



ナビゲーション

今号で提供したサイドポンツーンのパーツは、次号以降インタークーラーやラジエーターなどの周辺パーツを装着してからボディに取り付ける。事前に組み立てと車体に対する配置を確認しておく。

1 赤線で示した部分の形状を合わせてサイドポンツーン(左上)とサイドポンツーン(左下)を組み合わせてサイドポンツーン(左)をつくる。



2 サイドカバー(左)は写真のようにサイドポンツーン(左)の前方に配置される。それぞれが車体のどこに配置されるか、完成イメージを参考に確認しておこう。



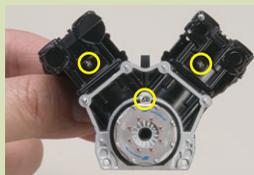
ディテールアップ

「スミ入れ」の方法

パーツの細い線や小さな凹みなどを黒く塗るスミ入れ作業を行うと、本モデルがより実車のイメージに近づく。ここではスミ入れの方法と、これまでに組み立てたパーツの具体的なスミ入れ部分について紹介する。作業前に10ページで紹介した道具を用意しておこう。

※今後提供するパーツでスミ入れが可能な部分についてはその都度紹介する。

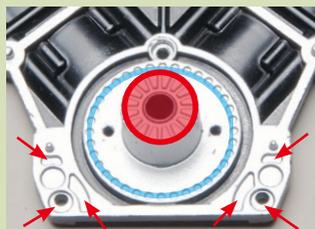
1 3号で組み立てたブレーキディスク、3号と4号で組み立てたブレーキキャリパー×2、7号で組み立てたエンジンブロックとオルタネーター、8号で組み立てたフロントアップライト(左)が、スミ入れできるパーツとなる。



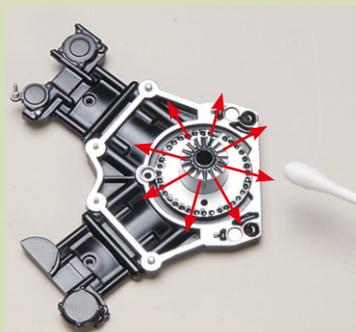
2 まずエンジンブロックの黄丸で示したビスをプラスドライバー(00番)で抜き、エンジンブロック(前)を取り外す。次に取り外したエンジンブロック(前)の裏側の赤丸で示したビスをプラスドライバー(00番)で抜き、クラッチカバーとクラッチディスクを取り外す。



3 エンジンブロック(前)の赤色部分の溝と、青丸の円周にある丸い凹み、赤矢印の6つの凹みにスミ入れをする。

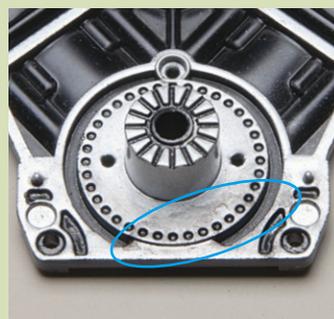


4 **3**で確認した部分に、「スミ入れ塗料」のキャップの筆で塗料を塗る。溝や凹みから塗料がはみ出してもよい。塗料が完全に乾くまで24時間以上おく。



5 塗料が完全に乾いたら、はみ出した塗料を写真のように寝かせた綿棒で拭き取る。円状に並んだ溝や凹みの周辺は、赤矢印で示したように放射状に拭き取る。

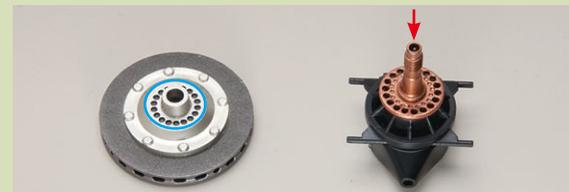
6 乾いた綿棒で拭き取れず、青丸部分のように汚れてしまった場合は、溶剤で先端を湿らせた綿棒で拭き取る。



7 正しい場所にスミ入れされているか、はみ出した塗料がきれいに拭き取られているかを確認する。**4**~**7**がスミ入れの作業となるので覚えておこう。

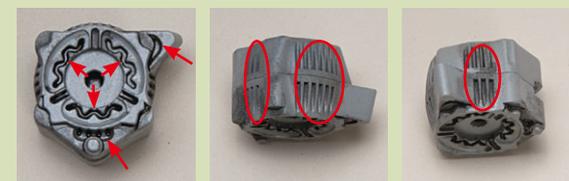


8 ブレーキディスクの青丸の内側にある並んだ丸い凹みと、フロントアップライト(左)のフロントアクスル先端の凹み(赤矢印)にスミ入れをする。



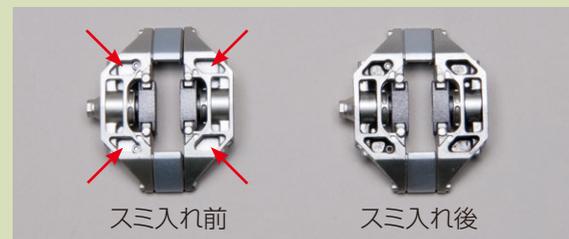
写真はスミ入れた状態

9 オルタネーターの赤矢印と赤丸の溝にスミ入れをする。オルタネーターは塗料を粗く拭き取って汚すと実車のイメージに近づく。



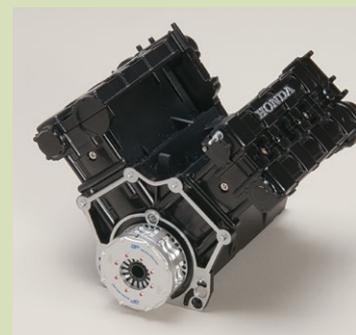
写真はスミ入れた状態

10 ブレーキキャリパーの赤矢印で示した凹みに、影を強調する程度に薄くスミ入れをする。



スミ入れ前

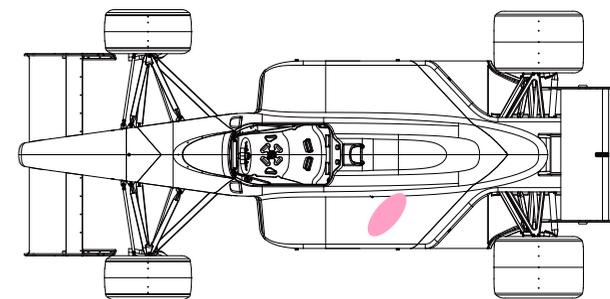
スミ入れ後



11 スミ入れ作業を終えたら、エンジンブロック(前)にクラッチディスクとクラッチカバーを取り付け、元通りエンジンブロックに仮留めする。

Mission 10 左のインタークーラーを組み立てる

今号は、左のインタークーラーのコア部分を組み立てる。組み立てたコア部分の上部と下部には、後の号でタンク部分を取り付けてインタークーラーを完成させてから、サイドポンツーンに装着する。ヒートエクスチェンジャーは車体左側に装着するパーツで、後の号でアンダーパネルに取り付ける。



今号のパーツ

① インタークーラー (左・外)



② インタークーラー (左・内) ダイキャスト製



③ ヒートエクスチェンジャー



※①③はHIPS (スチロール樹脂)製

今号で使用する道具

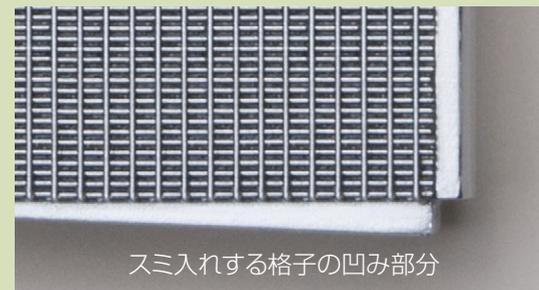
・瞬間接着剤

ディテールアップ

インタークーラーのスミ入れ



●インタークーラーはコア部分を再現した格子の凹みにスミ入れをしてディテールアップできる。スミ入れ塗料は凹み部分に染み込ませるようにするとよい。インタークーラーのスミ入れは、今号の組み立て作業後に行う。



※スミ入れはディテールアップのための任意の作業だ。詳しいスミ入れ工程については、9号の組み立てガイドを参考にしよう。

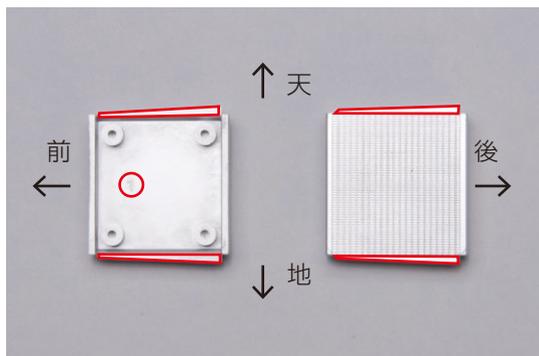
インタークーラーは左右のサイドポンツーンの後部に装着され、ターボチャージャーによって高温になった吸気を冷却するためのパーツだ。インタークーラーの冷却効率や形状はエンジンのパワーやスロットルレスポンスに影響を与える。本モデルのインタークーラーはHIPSとダイキャストで構成されている。

◀MP4/4の左側のインタークーラー周辺。

In Focus

1 インタークーラー (左・外) と インタークーラー (左・内) の接着準備

● ①インタークーラー (左・外)と②インタークーラー (左・内)は赤線で示した四角形の向きに注意しながら写真のように並べてパーツの形状、前後と天地を確認する。

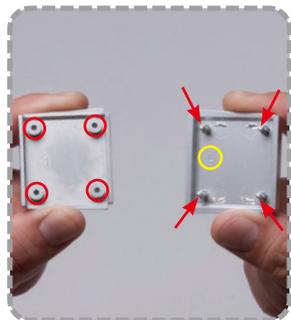


■赤丸で示した部分にある数字は作業手順とは無関係である。

《仮組み》

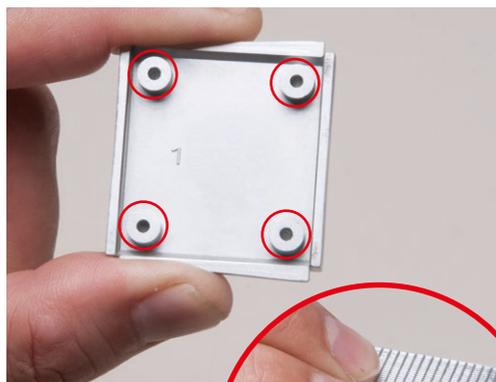
インタークーラー (左・内)とインタークーラー (左・外)の形状を合わせて、赤丸で示した4つの穴に赤矢印で示した4つの突起を入れて組み合わせ、インタークーラー (左)をつくる。

黄丸で示した部分に左のインタークーラーを示す「L」の刻印があることを確認しておく。



2 インタークーラー (左・外) と インタークーラー (左・内) を接着する

● インタークーラー (左・内)の4つの穴に瞬間接着剤を1滴ずつ落とし、仮組みしたようにインタークーラー (左・外)と組み合わせ、完全に接着するまで指で1分程度おさえる。



■指でしっかりとおさえること。

● インタークーラー (左)が組み立てられた。合わせ目にすき間がなく、正しく接着されていることを確認しておく。



今号の完成

左のインタークーラーの内と外が接着されて、インタークーラー (左)が組み立てられた。



■格子状のコア部分は、緩衝材などを巻いて保管すると傷がつきにくい。

保管例



保管パーツ

③ヒートエクスチェンジャーは棒状の部分を折らないように注意して保管しておこう。



ナビゲーション

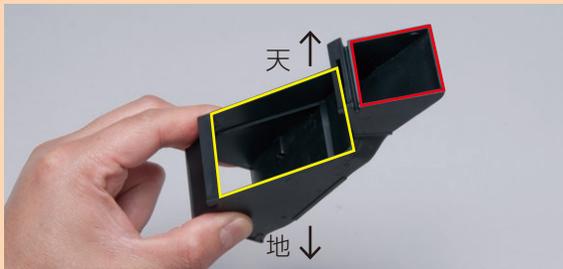
インタークーラー (左) の取り付け位置の確認

今号で組み立てたインタークーラー (左) は、後の号でサイドポンツーン(左)に装着する。事前に取り付け位置を確認しておこう。

- 1 9号で提供したサイドポンツーン (左上) とサイドポンツーン (左下) を用意する。



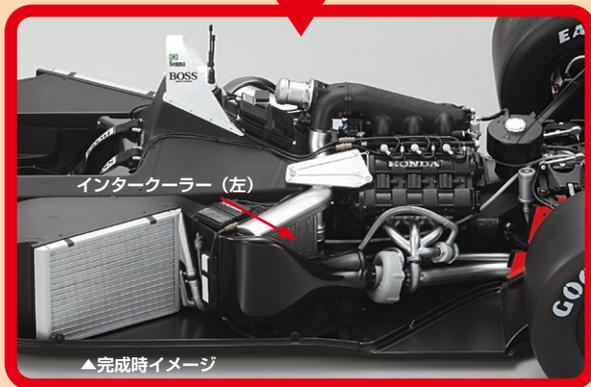
- 2 サイドポンツーン (左上) とサイドポンツーン (左下) の形状を合わせて組み合わせ、サイドポンツーン (左) をつくる。サイドポンツーン (左) は黄線で示した大きな枠がある方が車体前側、赤線で示した枠がある方が車体後側となる。



- 3 サイドポンツーン (左) とインタークーラー (左) の前後の向きを合わせ、赤線で示した枠の中にインタークーラー (左) の赤線で示した部分をはめ込んで組み合わせる。



- 4 各パーツの前後や天地を確認する。



PIT IN

ターボ関連のパーツ

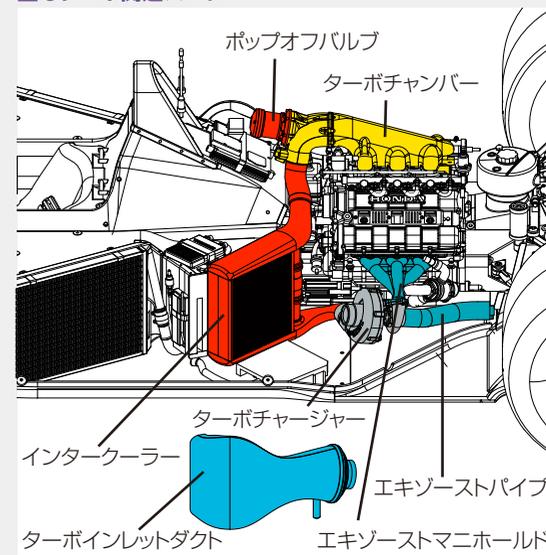
細部まで忠実に再現

ターボF1 マシンの本モデルは、今号で組み立てたインタークーラーや7号で組み立てたターボチャンバー、後の号で提供するターボチャージャーなど、ターボ関連のパーツが多数装着される。

これらのパーツは部分ごとに適した素材を使用し、実車のディテールと質感の両方を再現している。組み立てていく過程で、それぞれのパーツがどこに装着されてどのように接続しているかを確認することができる。

ターボ関連のパーツは、モデルが完成したあともボディカウルを外して見ることができる。1:8のビッグスケールモデルでしか再現できない精巧なつくりを鑑賞してほしい。

主なターボ関連パーツ



PIT IN

あると便利な道具

目的にあった道具を使うと作業がはかどる

各号の組み立てガイドで掲載している「今号で使用する道具」の用意があれば、組み立て作業に支障はでない。しかし用途にあった道具を使うと、より快適に作業を進めることができる。ここでは、本モデルの組み立てにあると便利な道具を紹介する。

精密ドライバー

ビスを締めたり緩めたりするときに、精密ドライバーを使うと作業がはかどる。精密ドライバーは持ち手が長く根本が回転するので、押し回しがしやすく狭い箇所でもビスを固定しやすい。本シリーズではビスの太さに合わせて00番と0番のプラスドライバーを使用する。



プラスドライバー (00番)

プラスドライバー (0番)

※何度も使って先端部分が磨耗したり変形したドライバーは、ビスの頭を傷つけてしまうため作業に支障がでる。先端に磨耗や変形があったらドライバーは交換するようにしよう。

彫刻刀



彫刀

平刀

この組み立てガイドでは、塗装をはがすときに「カッターの刃のない部分」を用いることが多いが、この作業に彫刻刀の印刀の刃先を使うと作業性が向上する。平刀は、パーツに残ったゲートやパーティングライン(パーツに残る金型の合わせ目)の処理に便利だ。

プラスチック用ニッパー

後の号で提供するランナー付きのパーツを切り離す際に便利。購入する際は刃が薄く、刃の外側が平らになっているものを選ぶとよい。刃の外側をパーツに密着させて切り離せるので、パーツに残ったゲート(パーツとランナーをつなぐ細い部分)の処理が簡単になる。



※赤矢印で示した刃の外側が平らなものを選ぶ。

ストレート型ピンセット



つる首型

ストレート型

組み立てガイドでは、先が曲がっている「つる首型」のピンセットを使用している。つる首型で作業しにくい場合のために、「ストレート型」のピンセットもあると便利だ。